

【評価実施概要】

事業所番号	0590200085
法人名	株式会社芳栄
事業所名	グループホーム 和み
所在地	能代市二ツ井町飛根字高清水265番地 (電話) 0185-75-2006
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 22年 3月 25日

【情報提供票より】(平成22年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 20年 3月 30日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 11人, 非常勤 8人, 常勤換算4.76人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	理美容代・おむつ代実費	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	7名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 82歳	最低	62歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金田医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの北側に位置する世界遺産で名高い白神山系が銀嶺の輝きを示し、利用者を和やかな気持ちにさせてくれる。周囲は静かな田園風景が広がり、四季折々の自然の豊かさを満喫できる。当ホームの玄関には黄色の点字ブロックで目の不自由な方への配慮がなされ、車イスを誘導するスロープも整っている。又、4月よりスプリンクラーが運用の運びとなり、火災への対処が万全になったことに職員一同、安心と喜びを感じている。リビングには利用者一人ひとりの暮らしぶりを写真に撮り、アルバムにした冊子が並べられている。その中にはホームで終末期支援を行った利用者の、元気な時の姿を特大のアルバムにしたものもあり、思い出が蘇るような配慮をしている。訪問時は利用者一人ひとりの笑顔と楽しい会話があり、ホーム内は賑やかな雰囲気であった。農村地帯である地域のつながりを活かし、近隣の方々との交流も日常的に行われるなど、魅力に満ちた2ユニットの事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念については、地域におけるホームの役割・機能を明確にした理念の基本方針が示され、運営の柱としている。地域とのつきあいについては、祭り等の行事に参加するなど、活発になっている。近隣の家族から頻繁に福祉相談があるなど、地域でのホームの役割も大きくなっている。その他、取組みを期待された項目に対して、全職員は前向きに対処し、サービス向上に尽くしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的に対して全職員は理解し取組んでいるが、自己評価の結果を活かした具体的な改善について、今後更に取り組んでいくことも期待される。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は市職員、保護者代表、町内会長、運営者、管理者、職員の構成で2ヶ月に1回開催されている。行事の案内、活動報告、質問、意見、要望等を通じ、双方向的な会議となるよう配慮されている。行政担当者とも訪問を通じて顔馴染みの関係が出来ており、情報提供等をサービスの向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月、利用者ごとに写真を添えた便りを家族に郵送し、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の報告がなされている。また、毎月の利用料支払いを兼ねて家族がホームを訪問することが定例化されている。その際には職員からの報告や家族からの相談、意見、要望等を聞く機会を設けている。それらを会議、ミーティング等で取り上げ、サービス向上に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年7月23日の町内祭典日には、町の郷土芸能の出張公演をしてもらうほか、ホームの駐車場に屋台を出し、家族や町民を招待するなど、人々の憩いの機会として定着している。また、町内の運動会にも誘いを受け、利用者、職員共々楽しんでる。日常的に近隣の方々から農産物を提供いただくのも楽しみの一つになっている。毎月「グループホームなごみだより」を発行し、活動報告や行事の紹介、頂き物のお礼の他、認知症の基礎知識や認知症サポーター養成についてのお知らせなどを掲載している。地域にも回覧板を活用して情報発信に努めている。</p>

## 2 . 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和やかな心」で接する、という理念の下、新たに「いつも明るい笑顔と 優しいことばで 行動はきめ細やかに 安心と安全で安定した生活を 送っていただくため 心を込めて 介護させていただきます」という基本方針を打ち出している。地域の中で暮らし続けることを支えるサービスということを運営の柱に置いている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者は新たな基本方針を、月二回開催される職員会議の中で繰り返し説明し、管理者、職員はその方針を共有し、日々実践に向けて取組んでいる。理念はホール内の目に付く場所に貼り出し、全職員は常に意識して、業務に活かす取り組みをしている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年7月23日の町内祭典の際には駐車場に屋台を出すほか、家族や町民を招待して町の郷土芸能の出張公演をしてもらい、利用者、家族、町内の人々の憩いの機会として定着している。又、町内の運動会の誘いを受けて利用者、職員共々参加している。日常的に近隣の方々から農産物を提供いただくのも楽しみの一つになっている。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員が理解しているが、特に自己評価の結果を活かした具体的な改善について、更に取り組んでいくことも期待される。		更なるプロ意識の向上に繋がる機会として、今後は取り組みを期待したい項目をより明確にし、可能であれば改善計画の作成や実施状況の評価等を通じ、具体的な改善につなげていくことも期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は市職員、保護者代表、富根地区町内連合会会長、運営者、管理者、職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催されている。ホームでの行事の案内、活動結果の報告、質問、意見、要望等を通じて双方向的な会議となるよう配慮し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当窓口の訪問を通じ、顔馴染みの関係が出来ている。ホームの実情やサービス提供の取組みを折りに触れて伝えている。又、担当窓口からも情報提供を得ることで、サービスの向上に活かしている。</p>		
<b>4.理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、担当職員が利用者別に写真を添えた便りを家族に郵送している。その中で、利用者の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理等の報告がなされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月一度の家族の訪問時(料金納入日)には個々に合わせた報告と家族からの相談、意見、要望等を聞く機会を設けている。さらに訪問できない方には電話にて聞く機会を設けている。それらを会議、ミーティング等で取り上げ、サービス向上に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホームでは職員の異動や離職はなく、馴染みの職員が引き続き支援を行っている。異動や離職等による影響への配慮については、運営者は職場の多様化に備えた将来の課題として対処したい意向がある。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に前向きであり、職員は積極的に外部研修やグループホーム協会の講習等に参加している。それらの研修報告は毎月の全体会議で報告され、研修報告書を全職員が閲覧出来る体制にある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本地区グループホーム協会に加入している。当協会は研修や勉強会を積極的に開催しており、地区では35を数えるグループホームのサービス向上の担い手になっている。当ホームでは協会で開催される研修会には必ず参加し、同業者との交流を通じて、サービス向上に役立つ取り組みをしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に、ホームを見学してもらうことから始め、職員が自宅に出向いたり、遊びに来てもらったりすることを繰り返しながらホームでの生活に馴染めることを見極め、利用に移行するように配慮している。		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとは人生の先輩であり、教わることが多いという考えを職員は共有している。日常的に利用者から教えてもらう場面が多く、そのような場面を作り出す工夫や声かけにも配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや表情、言葉使いといった毎日のかわりの中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、家族から本人への対応方法を聞き取るなどして把握に努めている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの課題やケアのあり方について、全職員で話し合う場を設けている。さらにご家族や本人の要望を取り入れ、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期計画(3ヶ月)長期計画(6ヶ月)の見直しを行っている。本人の状態変化による見直しは、現状に即し臨機応変に対応をしている。見直し時には家族と本人の要望を聞き取ると共に、介護計画実施後の評価の状況などを家族に伝えている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは介護を必要とする地域の家族から相談が耐えず、利用希望も多いことから、現在利用待機者が20名ほどいる状況である。ホームへの相談に関し、全職員は柔軟に対応し、地域の家族が安心を得られるような支援に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診している。受診や通院には職員が同伴し、家族の代行者として支援している。又、複数の医療機関と関係を密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームは終末期介護の実績がある。全職員は研修等を通じ、家族やかかりつけ医と繰り返し話し合うことの重要性を認識しており、利用者の状況変化に対応できるノウハウを共有している。又、終末期介護を行った利用者の元気な時の姿をアルバムに納めてリビングに置き、何時でも往時を偲ぶことが出来るように配慮されている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は他の家族や外来者に対して、利用者本人に関わるプライバシーについて話をしないことを徹底している。又、利用者一人ひとりへのさりげない言葉かけや対応にもプライバシーへの配慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重して好きな役割、希望した役割を設定し、個別性のある支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、食器の準備、片付け等には利用者も参加し、職員は利用者の意思や気持ちを大切にしながら進めている。又、訪問時も利用者一人ひとりの食欲は旺盛であり、美味しそうな表情や笑顔が一杯で、賑やかな雰囲気での昼食風景が見られた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴は週3回実施され、一人ひとりが入浴を楽しみにしている。職員と一緒に入り、利用者は解放感を味わいながら職員と話がはずみ、ゆったりとした入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの玄関脇には野菜畑が造られている。耕し、むね立て、種まき、成長管理、収穫といった一連の作業は、農作業の経験を持つ利用者にとって大きな楽しみとなっている。その他の場面においても、利用者一人ひとりが得意分野で力を発揮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらうことや五感刺激の機会として、その日の天候や利用者の気分、希望に応じて日常的に散歩・ドライブ・買い物等に出掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	職員は利用者一人ひとりの外出に関する思いを把握し、外出しそうな様子を見落とさないよう連携して支援を行っている。日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の指導の下で定期的に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。また、スプリンクラーについても4月より運用の運びとなり、防災対策には万全を期している。近隣住民との協力体制についても整っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの一日の栄養摂取量や水分量は大まかに把握されている。一人ひとりの嗜好も把握しているほか、利用者の体調に合わせたお粥やきざみ食などの提供も行っている。</p>		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には、障害者向けの点字ブロックを置く配慮を行っているほか、車いすで出入りできるスロープも整っている。ホーム内の共用空間は、利用者にとって心地よく暮すことが出来るように配慮されている。リビングには一人ひとりの写真アルバムが作られ、冊子として並べられている。居間はソファ等を適切に配置し、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は広く感じられ、家族等の訪問時に居室でくつろげるような空間作りに配慮している。利用者が馴染んだ壁掛けや家族の写真等が飾られ、その人らしい暮らし方に配慮した居室となっている。</p>		

 は、重点項目。